

平成 30 年度 岸和田市市展委員会 第 3 回委員会本会 会議録

1. 名称	平成 30 年度 岸和田市市展委員会 第 3 回委員会本会
2. 開催日時	平成 30 年 12 月 18 日 (火) 午後 2 時～午後 3 時
3. 開催場所	岸和田市立文化会館 創作実習室 2
4. 公開・非公開の別	公開
5. 出席者	西村委員長、仲村和久委員、橋田委員、武井委員、仲村松堂委員、 掃部委員、藤本委員 以上 7 名
6. 欠席委員	稲葉委員 以上 1 名
7. 事務局	赤井課長、田宮参事、栢木担当員、島岡担当員 以上 4 名
8. 傍聴者	なし
9. 次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1)平成 30 年度 市展受賞作品展について (2)平成 30 年度 文化の日祝典について 4. 案件 <ol style="list-style-type: none"> (1)平成 31 年度 第 70 回岸和田市市展について <ol style="list-style-type: none"> ①染織部門について ②会期の組合せについて ③作品募集要領(案)・書の釈文用紙(案)について ④市展委員について ⑤解説時間について ⑥広報活動について (2)その他 5. 閉会
10. その他	
会議録承認	平成 31 年 1 月 11 日 委員長承認

1. 開会 赤井課長より挨拶

2. 委員長挨拶 西村委員長より挨拶（進行）

3. 報告

（1）平成 30 年度 市展受賞作品展について
事務局から、出品点数・入場者数などを報告。

（2）平成 30 年度 文化の日祝典について
事務局から、案内送付数、出席者数などを報告。

4. 案件

（1）平成 31 年度 第 70 回岸和田市市展について

① 染織部門について

→来年度、染織部門を休止したいと申し出があった。

染織部門

近年出品者が増えない。来年度は更に減少の見込みとなっている。公募展としてなりたたないため、一時休止をとりたい。

委員長

休止について意見はあるか。

陶芸部門

出品がないとわかっているなら仕方がないと思う。新たな出品が見込まれるのであれば話は別だが。

染織部門

関西は染織の人口自体が減少している。どうにかしたいとは思っているが難しい。来年、考える時間を設けて、出品が増えそうであれば復活したい。

洋画部門

出品が少ないというのはどうしようもない。厳しい状態であると思う。

書部門

染織している人は見かけるが、市展出品はハードルが高いと感じているようだ。1年休止している間に、工芸というジャンルを考え、彫刻などをされている方もいるので、新しい審査員などを探して新ジャンルを考えてみるのも一つの考えではないかと思う。数年準備期間

を設けて、工芸部門として考えてはどうか。

委員長

中長期的な視点に立って考えなければならない問題だと思う。当面、来年度の染織部門については休止ということで良いか。

⇒了承

② 会期の組合せについて

→1期 洋画展、2期 写真展、3期 書展・日本画展 4期 陶芸展・俳画展と変更しても良いか。

⇒了承

③ 作品募集要領（案）・書の釈文用紙（案）について

・応募方法

「市外の方でも応募できます」を追加。

・作品募集要領変更点

書の部の作品の大きさを、

→額装・軸装・裱装・衝立は「仕上がり寸法 180cm×180cm 以内」又は「仕上がり寸法 250cm×70cm 以内」（縦横自由）

屏風・帖・巻物・刻字・篆刻は「自由」と変更。

・作品募集要領その他の注意について

→「搬出日を過ぎた作品のお預かりはできません」を追加。

・書の釈文用紙

→かな出品者には釈文提出を出来る限り徹底すること。（読めない方が多数いるため）

④ 市展委員について

・市展本会委員、部会委員の役割について

→資料6参照

・本会委員

→洋画：仲村和久委員、染織：橋田委員、陶芸：西念委員、書：仲村松堂委員、
日本画：掃部委員

⇒その他の部門は、1月末までに事務局に連絡。

・部会委員

→洋画が決定。陶芸・日本画は新規委員を選出予定。

⇒その他の部門は、1月末までに事務局に連絡。

⑤ 解説時間について

→洋画：15時、書：15時、日本画：15時半、俳画：15時、陶芸：15時半

⇒その他の部門は、1月末までに事務局に連絡。

⑥ 広報活動について

→今後の掲載予定、募集要領送付予定を報告。

(2) その他

→事務連絡

書部門

広報についてだが、ホールを出た道路のところに看板が欲しい。また、市の広報にももう少し大きく掲載できないか。

事務局

市の広報掲載スペースについては、様々な課の申込があるため難しい。

書部門

市展のチラシを町内会で配ってもらえないか。町内会の回覧などで回せる様にできないか。

事務局

チラシを配るためには、かなりの費用がかかってくると思われる。個別なら8万枚、班別で配るにしてもかなりの数を用意しなければならないことになる。

陶芸部門

印刷費とは別に委託料が必要になってくるのではないか。加えて、町会にも負担がかかってくる。

書部門

しかし何かをしなければと思っている。何もしないままだと発展はないと思う。

洋画部門

前回の会議でも話をした次世代の出品についてどう取り組むかが課題かと思う。若い世代の美術世界は様変わりしている。タブレット上で絵を描く時代にきている。広報活動の工夫も大事だとは思いますが、工夫をしても若い世代は出品がないと思う。今、洋画部門は最小20号からが出品規格になっているが、若い世代がA4サイズで絵を描く時代になっている今、市展の規格は若い世代にとってそぐわないものとなっているのではないか。次世代を市展に呼ぶための中身（内容）を考えなければならないのではないか。

書部門

市展出品者の平均年齢はかなり高い。過去、学校で書道を教えている先生を審査員に加えればどうかという意見もでたが、学生は表具を手作りするため、一般出品者の表具とは見栄えに差がついてしまう。そのため審査を分けてはどうかという意見も出ている。書部門でも色々と考えている。

委員長

長期的に捉えて検討しなければいけない問題かと思う。染織部門が休止になった問題は、市展全体の問題でもあるかと思う。市展を継続・発展するためには、どのような工夫が必要なのかを検討するのは大きな問題である。今出た意見も踏まえて、具体的にどうすれば良いかの案を出し、今後も議論しなければならない問題である。

5. 閉会